

平成 30 年度 奈良県租税教育推進連絡協議会会長賞

消費税増税について

東吉野村立東吉野中学校 三年 今中 亮太郎

今、日本では消費税などの増税が行われている。次は一〇パーセントにまで上がるということだ。消費税の税率が上がると、利益を保つために色々な物の値段を上げられる。そのため、国民からは不満の声も出ている。

ではなぜ、消費税の増税が行われるのか。主な理由としては、高齢者の増加によってふくむ社会保障の財源を確保するということだ。社会保障は国の歳出のトップであり、僕たちが安心して生活していくための公的サービスのことである。少子高齢化によってこの費用が増え、負担する働き手が減ってきている。つまり、働き手の負担が大きくなってきているということだ。一九七五年では高齢者一人の生活を働き手七・七人で支えていたが、二〇五〇年には一・三人で支えることになるそうだ。

また、老後の安定した生活や健康で文化的な社会の実現には、本当に大きな費用が必要となる。もちろん、社会保障は高齢者だけでなく、学校で授業を受けるための費用などで僕たちも公的サービスを受けている。社会保障の財源のために負担が大きくなるのも仕方がないと思えてくる。

このような事を詳しく知らなかった僕は、これまで増税についてやめてほしいと思っていた。しかし、それは物が高くなるからというだけの理由だった。しかし、今自分は何不自由な生活を送っている。前述のような現在の日本が抱える問題について考えずに反対していた。

増税するのが正解かどうかは難しい問題で僕には分からないが、負担が増えても暮らしていけるはずだと思う。だから、安易な理由で賛成、反対せずにしっかりと考え、自分の生活について振り返りたいと思う。

また、自分もその公的サービスを受けていて、働き手として負担をした後は高齢者として支えられることになるということを忘れてはいけないと思う。その時は担い手でも、いずれ支えられることになるのだから、両方の立場に立って考えたい。